NPO法人

ブリッジ・フォー・ピース

代表者　神　直子
日本所在地
住所：〒444－0045　愛知県岡崎市康生通東1-23 Global Studies Café
NPO法人ブリッジ・フォー・ピース事務局
TEL：080－4439－5500
担当者：神　直子

ウェブサイト　http://bridgeforpeace.jp/
その他SNS等　https://www.facebook.com/bridgeforpeace1
https://twitter.com/bridgeforpeace

団体目的

ブリッジ・フォー・ピース（BFP）は、フィリピンの戦争犠牲者と元日本兵の方々の体験を聞き取り、ビデオメッセージによって両者を結ぶ活動から始まった団体です。

戦争のない平和な社会を実現する為に、「過去」そして「現在」「未来」と向き合い、アジアを中心に懸け橋を築き、国境を越えて多様な世代とのつながりをもつ場づくりを今後も広げていきます。

異なる意見が出会い、参加する一人ひとりによって相乗効果がもたらされるワークショップを通して【過去の戦争を知り、未来のかたちを考えるきっかけをつくる】ことが、BFPのミッションです。

設立背景

代表の神が大学生の時、初めて訪れたフィリピンで未だ戦争の傷が癒されない人々から苦しみをぶつけられた事がきっかけとなり設立しました。夫を亡くした女性は、「日本人なんか見たくなかったのに何であんたはフィリピンに来たんだい！」と泣きじゃくりながら言いました。

そして一方では、過去の戦争の加害行為への自責の念に、年老いてなお苦しみながら亡くなった元日本兵がいたと聞きました。

「歴史の上での被害者と加害者」という事ではなく、いまだ「戦争で負った心の傷が癒えない人々がフィリピンにも日本にも沢山いる」ことを知った時、日本人としての自分を強く意識するようになり、いても立ってもいられない気持ちになりました。

なぜ悲劇が起こったのか知りたい。元日本兵の方々がどんな想いで過去の戦争について振り返りながら余生を過ごしているのかを知りたい。そして、その元日本兵の「素顔」や「想い」をぶつけるところのない怒りが未だに渦巻いているフィリピンへ、メッセージビデオとして届けたいと思いました。

それが何の意味をもたらすかは分からないけれど、「過去の戦争によって受けた苦しみを抱える方々の気持ちが少しでも軽くなったら…」という想いだけで、この活動を始めたと言っても過言ではありません。

事業概要

1. 戦争体験者のメッセージ記録事業
2. ワークショップ事業
3. 文化的背景や異なる価値観を共有する国際交流事業
4. 普及啓発事業

1 フィリピン人遺族から、戦争の話を聞くBFPメンバー
2 ビデオカメラの小さなモニターで、ビデオメッセージに見入るフィリピン人

BRIDGE FOR PEACE

団体構成員
日本事務所：有給専従1名、無給非専従140名

収支実績
2017年4月～2018年3日
収入：2,411,793円
支出：2,851,751円

事業分野

コミュニティ　産業　人材　生活　金融　救援
地球環境　平和・政治　人権全般　その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内　容
2015年度～2018年度	東芝国際交流財団	日韓交流事業
2016年度	岡崎市	朝鮮通信使シンポジウム開催
2012年度	PIVOT基金	戦争体験者の取材事業
2011年度	アジア民衆パートナーシップ支援事業	海外プロジェクト費
2011年度	草の根市民基金ぐらん	冊子作成事業

活動への参加方法

○ 会員制度
○ インターン
○ 報告会、学習会
○ スタディーツアー
※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景

3 神戸の高校で開催した、BFP の国際理解ワークショップ授業の様子　**4** 虐殺事件の生き残りである 90 代フィリピン人男性と、BFP メンバー　**5** フィリピン人戦争体験者を取材する、BFP メンバー　**6** ビデオメッセージを見る、日本の中学生たち

特定非営利活動法人

ふれんどしっぷASIA

代表者　田中　祥一
日本所在地
住所：〒234－0055
横浜市港南区日野南6-31-7
TEL：080－6556－3877
担当者：田中　祥一

ウェブサイト　http://ameblo.jp/friendshipasia/
その他SNS等　https://www.facebook.com/friendshipasia/　https://twitter.com/friendshipasia
https://www.instagram.com/friendshipasia/

団体目的

フィリピン及びタイ等アジア地域を中心に、経済的にもっとも貧しく、社会的にもっとも小さな存在の人々に対して、持続可能な開発、教育、保健衛生に関する事業を行い、衣食住と基本的人権が確保された平和で自立的な生活の確立に寄与することを目的とする。

設立背景

青山学院大学教授（当時）雨宮剛氏による学生たちのための体験学習ツアーが1988年から2002年にかけて行われ、フィリピン16回、タイ11回を数えた。フィリピン、タイでそれぞれ、都市の底辺や農村の草の根民衆の日本とはかけ離れた生活状況、民衆生活に影響を与える日本との経済関係、また彼らのために働くフィリピン人、日本人の姿を見て学生たちは帰国した。そのうちの何名かが中心となり、現地で見て、学んできたことをもとに何か行動しようと話し合い、団体を立ち上げた。

特にフィリピンに関しては、戦前、太平洋戦争期、戦後、そして現在に至るまでの日本の経済力、時には軍事力による影響を踏まえた上で、経済的貧しさ故に生活、教育、労働等の面で様々な困難に直面している人々と交流し、また分かち合おうとして活動を開始した。

フィリピン事業地

ケソン市（交流先：Rondalla On Wheels）
西ネグロス州ビナルバガン市（パートナー：Servants of the Divine Mercy Foundation）
西ネグロス州バゴ市（支援先：MC-ARI）

事業概要

①ケソン市の車いす楽団Rondalla On Wheelsとの交流、学資の支援

②西ネグロス州ビナルバガン市のServants of the Divine Mercy Foundationの青少年プロジェクトの資金支援、図書贈与、上記SDMを通じた近隣小学校への学用品配付

③西ネグロス州バゴ市のMother-Consuelo Asian Rural Institutesが行う奨学金制度への奨学金支援

SDM（西ネグロス州ビナルバガン市）への学習貸し出し用図書寄贈

団体構成員
日本事務所：無給非専従10名

収支実績
2017年4月～2018年3月
収入：569,077円
支出：489,303円

事業分野

コミュニティ　産業　人材　生活　金融　救援
地球環境　平和・政治　人権全般　その他

活動への参加方法

- ○ 会員制度
- ○ 会員以外の支援者制度（ドナー、サポーター等）
- ○ 報告会、学習会
- ○ スタディーツアー
- ○ バザー（フェアトレード商品購入含む）

※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景

1 ROW（車椅子ギター楽団）ケソン市　**2** 西ネグロス州ビナルバガン市での小学校学用品支援　**3** 国際協力イベントへの出店（手芸品、フィリピンのボードゲーム紹介販売）　**4** 西ネグロス州ビナルバガン市でのSDMによる次世代リーダー育成セミナー

特定非営利活動法人

Hope and Faith International

ホープ　アンド　フェイス　インターナショナル

代表者　福井　誠
日本所在地
住所：〒158－0094
東京都世田谷区玉川4-10-20
TEL：03－3707－6159
担当者：佐々木　美佳子

ウェブサイト　http://internationalhf.net/

団体目的

貧困など社会的援護を必要とする人々（主として子ども）が、新しい希望と信頼をもって支え合う家族やコミュニティーを、自立的に実現させていくように、教育的・福祉的援助を行います。

設立背景

1998年3月、フィリピン・セブ島の貧困地域に古着を送る小さな働きがきっかけでした。2001年就学支援の相談を受け、友人や知人と共に奨学金を提供する働きを開始、2002年現地にNGOを設立、補習授業や健康クリニックなどを行う子どものトータルな育成を目的とするセンター活動へと発展しました。活動開始から約 20年、当初支援した子どもたちは、大学を卒業し、学校の教師、エンジニア、ソーシャルワーカーなど、多様な分野で活躍し貧困地域から転居、新しい家庭を築いています。又、彼らによって、私たち外国人には入り込めない貧困地域の再貧困層への働き掛けも行われるようになりました。2018年4月より持続可能な支援を目指して、開発援助を重視、障がい児の母親が子どもを巻き込んで行う縫製内職の生活自立活動を支援しています。

フィリピン事業地

セブ島、マンダウェ市、カンビノコット村

事業概要

マンダウエ市（都市部）
MAICA（健常児）9名MHCPC（障がい児）22名の就学生活支援、センター活動の提供。内容：補習授業、健康診断、歯科検診、社会見学、学用品購入、マナー教室、グループワーク、リーダーシップトレーニング、ワークキャンプなど。障がい児の母親たちが子どもと一緒にできる内職の仕事（ミシンを使い雑巾を縫う）を草の根的に始めており、その活動の支援を2018年4月より開始しました。年1度HFIスタディ・ツアーを行っています。

カンビノコット村（山間部）
CHFISC（山間部）18名の就学生活支援、センター活動の提供、内容：補習授業、社会見学、学用品購入、マナー教室、グループワーク、ワークキャンプ、など。都市部に流出する地方の貧困者層の教育の充実を目的として、カンビノコットでの学習支援センターの建設と運営に取り組んでいます。HFIスタディツアーを同様に行っています。

スタディツアーにて折り紙を通し、
文化交流しているところ

団体構成員
日本事務所：有給非専従2名、無給専従1名、無給非専従2名
カウンターパート：無給専従4名

収支実績
2017年7月～2018年6月
収入：3,728,821円
支出：9,585,926円

事業分野

コミュニティ　産業　人材　生活　金融　救援
地球環境　平和・政治　人権全般　その他
e.t.c.（障がい児、者就学生活支援）

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内　容
2018年7月～2019年6月（1年間）	三菱UFJ国際財団	日比青年交流スタディツアー50万 フィリピン　セブ島
2017年4月～2018年12月（2年間）	大竹財団	ネパール・ヌワコット市古井戸改修プロジェクト82万 ネパール　ヌワコット
2017年4月～2018年3月（1年間）	アジア生協総合研究所	ヒマラヤ養蜂プロジェクト61万 ネパール　バサ村
2012年3月～	宮城教育委員会、宮城教育大学	被災地教員お道具箱プロジェクト、宮城県高校生奨学金支援プログラム
2002年10月（1か月）	世田谷区生活文化部国際交流課	フィリピン　セブ島オパオ地区、家族計画指導

活動への参加方法

○ 会員制度
○ 会員以外の支援者制度（ドナー、サポーター等）
○ ボランティア
○ 報告会、学習会
○ スタディーツアー
※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景

1 レストランでマナー研修　**2** MHCPC月別のお誕生日会、スポンサーチャイルドにとってプレゼントされたケーキと風船は特別な贈り物です　**3** 英語の歌を発表　**4** MHCPCミシンプロジェクト、自宅で母親のミシン掛けのお手伝いをするダウン症の女の子　**5** 折り紙を通し日本の文化を伝えているところ

認定NPO法人

ホープ・インターナショナル開発機構

代表者　ロウェル・シェパード
日本所在地
住所：〒460－0008　愛知県名古屋市中区栄
1-16-2　神谷ビル2F
TEL：052－204－0530
担当者：木下　香奈子

ウェブサイト　www.hope.or.jp
その他SNS等　www.facebook.com/HOPEInternationalJapan/

団体目的

ホープの活動目的は、住む場所に関係なくすべての人々が生きていくために必要で基本的な権利（衛生的な水・食糧・住居・健康・労働・レクリエーション・経済的自立・初等教育など）が保証され、それぞれが持つ能力を十分に発揮できる機会が与えられるべきだという信念のもと、途上国の貧しい中でも最も貧しい人々と共に働き、技術、知識を身につけるプロジェクトを行い、現存する物を有効活用しながら経済的に自立したコミュニティーが作れるような開発活動を行うことにある。

設立背景

特定非営利活動法人ホープ・インターナショナル開発機構は、2000年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立され、2004年愛知県により特定非営利活動法人としての活動を承認された。発展途上国の人々を支援する国際協力団体として、インド、エチオピアでのコミュニティー開発支援事業、フィリピンでの教育支援事業、カンボジアでの健康・栄養管理促進事業、エチオピアでの水供給事業、大災害緊急支援事業などの国際開発事業を展開している。

フィリピン事業地

ミンダナオ島ダバオ市

事業概要

当団体は、2003年からフィリピンで貧困状態にある家族やコミュニティー、主に最貧状態にある先住民族の自立支援に力を入れきた。しかし先住民族が直面している問題は、貧困ではなく、社会からの孤立や「文化消滅の危機」など多岐に渡る。民族の若者が独自の文化への理解を深め、伝統を守っていくための知識と技能を身に付けることができるような高等教育を受けることで、力をつけた若者たちは現代社会の中で学んだことを生かし、問題の解決に取り組み、未来に向かってコミュニティーを率いていける。このような次世代を担う若者の育成を目的といて設立された「パムラーンセンター」は、当団体も2010年から支援しており、フィリピンにおける重要なプロジェクトとなっている。パムラーンセンターは、「先住民族の若者たちに、有意義な費用効果の高い教育を」という先住民族リーダーたちからの要望を受けて、いままでに類を見ない高等教育機関として2006年にミンダナオ島のダバオ市に設立された。在学中の4年間は、人類学、社会的企業、持続性のある農業技術、初等教育などの専門科目を学び、各コースの学位を取得すると同時に、独自の言語や技術などの伝統文化を深く理解し継承していくことを求められている。卒業後は、パムラーンで学んだことを生かし2年間の社会貢献活動を行い、コミュニティーに戻り教師や開発プロジェクトリーダーとして働いたり、起業をして地元のために尽くしている。

パムラーンセンターの卒業式
少数民族の学生とホープスタッフ、支援者

HOPE International Development Agency

団体構成員

日本事務所：有給専従4名、有給非専従4名、無給専従3名、無給非専従2名
フィリピン事務所（カウンターパート）：有給専従20名、有給非専従5名、無給専従3名、無給非専従3名

収支実績

2017年10月～2018年9月
収入:105,935,824円　支出:103,445,845円

事業分野

コミュニティ　産業　人材　生活　金融　救援
地球環境　平和・政治　人権全般　その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内　容
2013年12月	ジャパンプランフォーム	台風ハイエン緊急支援（10,461,323円）
2014年2月	ジャパンプランフォーム	台風ハイエン緊急支援（25,094,041円）
2017年10月	JAMMIN	パムラーン支援用　寄付金付Tシャツ等販売の寄付（186,096円）

活動への参加方法

○ 会員制度
○ 会員以外の支援者制度（ドナー、サポーター等）
○ ボランティア
○ インターン
○ 報告会、学習会
○ スタディーツアー
○ バザー（フェアトレード商品購入含む）

※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景

1 台風ハイエン支援　2 少数民族の小学校にて　3 パムラーンセンターにて飾れている卒業生の看板　4 パムラーンセンターにて少数民族について説明する学生

特定非営利活動法人

ユニカセ・ジャパン

代表者　中村　八千代
日本所在地
住所：〒108－0014　東京都港区芝4-11-1
TB 田町ビル1 階　MBE151
TEL：090－8430－7703
担当者：河村　有紀

フィリピン所在地
住所：Unit C, #1036, Hormiga cor Teresa St., Rizal Village, Brgy. Valenzuela, Makati City, Metro Manila
TEL：02－519－6406、0927－791－5516
担当者：中村　八千代(日・英)

ウェブサイト　http://www.uniquease.net/
その他SNS等　https://www.facebook.com/UNIQUEASE.Restaurant

団体目的

ユニカセ・ジャパンは、恵まれない環境で暮らす青少年らが仕事に就き、職を通して生活環境を改善することを目指すと共に、彼ら自身がマネージメントを行えるようになるための青少年育成事業やライフビジョン・陶芸ワークショップを含む研修事業を行っている。虐待や人身売買などの様々な危険にさらされた経験者や元ストリートチルドレン、ゴミ山近辺で生まれ育った経験のある青少年らの自立を実現させるため、日本や各国の青少年との交流を通してお互いに友情と理解の促進をはかり、学び合うことを目的とする国際的な団体である。

設立背景

2010年にフィリピンで設立した社会的企業ユニカセ・コーポレーションが実施している研修を継続するため、2013年に青少年育成事業を主たる目的としNPO法人ユニカセ・ジャパンが設立され、フィリピンと日本で定期的に研修事業や講演会・イベントを開催し、青少年スタッフの社会復帰と自立を支援すると共に、日本の学生をインターンとして受け入れ、ビジネスの実体験から学んでもらう機会を設けている。マニラ首都圏でユニカセ・コーポレーションが運営しているレストランでは、新鮮な有機野菜を使った栄養価の高い食事を提供し、日本からのスタディーツアーのお客様には貧困地域の社会問題について説明をし、意見交換なども行っている。

フィリピン事業地

メトロマニラ、マカティ市

事業概要

1. 研修・イベント：現場での“生きた教育”を通して、自ら気づき、考えることの大切さを学ぶ。様々な問題に目を向け、事業計画を作成した上で、問題解決案の実行に移す能力を培う。“青少年育成事業”で学んだ成果を国際交流の場で紹介する。

2. 広報活動：日本やフィリピンの大学等の教育機関における講演会を毎年開催すると共に、テレビ・新聞などのメディアでも多数紹介していただいている。

3. フェアトレード事業：ユニカセのパートナー団体であるNGOや市民団体、青年海外協力隊の技術提供により生産された商品や、ユニカセ青少年スタッフたちによる手作り菓子やアクセサリーを紹介・販売している。

4. 奨学金制度：ユニカセ青少年スタッフが、十分な教育を受けられるよう学校に通う機会を設け、一人一人に合った教育支援を実施している(就業しながら、学校に通えるための資金的援助やシフト調整)。

5. インターンシップ：グローバル人材の育成を目的とし、日本の高校生や大学生を対象に、短期研修ツアーの実施や、長期インターンシップ制度を設けている。

2018年　UNIQUEASE Corporation　スタッフの集合写真

uniquease (yu-nik-ka-se)

団体構成員
日本事務所：無給非専従8名
フィリピン事務所：有給専従3名（内日本人1名）、有給非専従4名、無給非専従7名

収支実績
2017年4月1日～2018年3月31日
収入：3,836,889円
支出：3,804,997円

事業分野

コミュニティ　産業　人材　生活　金融　救援
地球環境　平和・政治　人権全般　その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内　容
2011年	関西学院大学・神戸女学院等	講演会実施
2012年	慶応大学・早稲田大学等	講演会実施
2013年	龍谷大学・同志社大学・明治大学・横浜市立大学・上智大学等	講演会実施
2015年2月	損保ジャパン日本興亜福祉財団	助成金（人材育成・研修費用）
2017年～2019年	公益財団法人日本国際協力財団	助成金（食育事業）

活動への参加方法

○ 会員制度
○ 会員以外の支援者制度（ドナー、サポーター等）
○ ボランティア
○ インターン
○ シンポジウム
○ セミナー
○ 報告会、学習会
○ ワークキャンプ
○ スタディーツアー
○ バザー（フェアトレード商品購入含む）

※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景

1 2015年 長野県　Café Penticton での研修
2 2011年 岩手県陸前高田訪問＆桜の植林事業参加
3 2017年　ユニカセ・ジャパンのイベント「アジアカンファレンス第2回」開催
4 2013年 三重県　高校生レストランでの研修
5 2015年 ワークショップでのインターン発表